

2021年度 一般入学試験 前期日程 (2月2日)

国

語

(試験時間 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、31ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問

次の文章は、ある本の冒頭部として書かれたものである。これを読んで、後の問い（問1～11）に答えなさい。

生きていくためにはカネが必要だ。

この単純な事実をわれわれの思考の出発点にしよう。

この本は通常のやり方でいけば、哲学・思想のジャンルに分類される。しかし生きていくために思想や哲学といったものが絶対に必要なわけではない。そんなものがなくてもカネがあれば生きていける。むしろ必要なのはカネを稼ぐための知識やスキルだ。もし難しいことにアタマをつかうのなら、哲学や思想について考えるよりも、どうやったらうまくカネを手に入れることができるのかを考えたほうがいい……。

外からみると、哲学や思想というのは、どうでもいいことをゴチャゴチャ考えているだけに映るかもしれない。哲学や思想の知識がなくても生きていける、と見切られてしまうのはそのためだろう。

ただ、^(A)哲学や思想も、カネを手に入れる方法について考えないわけではない。一般に思われているほど、哲学や思想は、生きるということに無関心ではないのだ。

では、カネを手に入れるためにはどのような方法があるだろうか。

原理的にいえば四つの方法がある。難しいはなしではない。

- 一、誰かからカネをもらう。
- 二、みずから働いて稼ぐ。
- 三、他人からカネを奪う。
- 四、他人を働かせて、その上前をはねる。

最初の「カネをもらおう」というのには、いろんなケースがある。【 a 」、家族にフヨウ(1)されていたり、生活保護をうけていたり、寄付や補助金をもらったり、といったケースだ。

問題はそのあとの三つである。じつはこれらは、よく見ると、社会の外枠をくみだてている三つの柱にかかっている。労働、国家、資本だ。

みずから働いて稼ぐというのは、言うまでもなく労働のあり方そのものである。多くのひとにとってカネを手に入れるということは、すなわち働くということだ。どんな職種であろうとそれは変わりが無い。農業であろうが、工場や工事現場の仕事であろうが、オフィス・ワークだろうが、みんなそうだ。みずから働くという点でいえば、個人でやっている自営業もここに入るだろう。

しかし残りの二つはわかりにくいかもしれない。

まず、他人からカネを奪うということがなぜ国家にかかっているのだろうか。他人からカネを奪うなんて、ただの犯罪ではないのか？

税金を考えてほしい。国家がどうやってカネを手に入れるのかといえば、それは税金の徴収によつてだ。税金の徴収とは、その仕組みをみるならば、国家が人びとからカネを奪っているということではない。

いや、そうではない、という意見もあるかもしれない。少なくとも私は税金をみずから進んで納めているのであつて、けつして国家にカネを奪われているわけではない、と。

この意見はしかし、それほど正しくない。

というのも、われわれには税金を納めない自由はないからだ。所定の税金を支払わなかったことがバレたら、強制的に財産を没収されたり、捕まったりしてしまう。もし税金を払わないでおこうと思つたら、それを隠すためにいろんな苦勞をしなくてはならない。たとえば消費税を支払わないようにしようとすれば、あらゆる買い物が困難になってしまう。

納めても納めなくてもどちらでもいいというわけではない以上、税金は強制的なものである。みずから進んで自発的に税金を

納めているといえるのは、納めなくてもいいのにあえて納めている場合だけだ。

【b】、気持ちのうえでは自発的に税を納めているひとはたくさんいるだろう。しかしそれはあくまでも、納めることが強制されているという枠内での自発性ではない。

社会のなかには喜んで税を納めるひともいれば、いやいやそれをするひともいる。そうした各人の動機の違いをこえて税の徴収を可能にしているのは、それが強制的なものだという事実である。

税が徴収されるのは公共のためだ、としばしば言われる。税金を自発的に支払っているというひとは、おそらく、税は公共のためのものだという理由からそうしているのだろう。国家が税の徴収を正当化するのも同じような理由からだ。

しかし、どのような理由で根拠づけられようとも、税が強制的なものであるということ自体は変わらない。君主のためであるうと、公共のためであろうと、さらには国民自身のためであろうと、そうである。

税をなりたせているのは理由ではない。強制的にカネがもっていかれるという点に、税のキバン(ロ)はある。

逆にいえば、税は強制的なものであるからこそ、それを正当化するための何らかの根拠が必要となるのだ。税を徴収される人びとのほうも、それが強制的なものであるからこそ、正当な目的のために税が使われるべきだと考えるのである。

ポール・ヴィリリオは、国家はもともと「軍事的捕食者」であったと述べている。

【c】、軍事的な強者が人びとの生活に寄生し、かれらに貢物を強要するというのが国家のもともとの姿だということだ。生きるためには働いて、必要なものを採ったり作ったりといった生産活動をしなくてはならない。軍事的捕食者はしかし、生きるためにみずから生産することはない。他の人びとから奪うことで、その生は営まれているのである。

国家についてはこれくらいにして資本のはなしにうつろう。

問題は次のようなものであった。他人を働かせてその上前をはねることは、どのように資本とかわわっているのだろうか。

企業の仕組みを例にとろう。企業とは、まとまったカネ（資金）をもとに事業をおこし、従業員を雇って利潤をあげようとする経済主体のことである。

この場合、企業は売上げのすべてを従業員に給与としてあたえることはない。ある程度の売上げは、事業をさらに展開するための資金として（あるいは出資者への配当として）ストックしておかなくてはならないからである。利潤をあげることが目的である以上、事業が展開するにつれ、資金は最初の額より増えていかななくてはならない。

はじめにあった資金は、従業員の労働をつうじて増殖していく。これを資本の自己増殖という。^(D)カネはみずからの増殖を目的としてのみ、労働の場に投入されるのである。

このカネの投入を、なにかを買うという単なる消費活動と混同しないようにしよう。消費によってカネが増殖することはないからだ。従業員の労働をつうじてカネが増えるというところに、資本の活動の特徴がある。そこでは従業員はじぶんたちの労働の成果（収益）をすべて受けとることはない。要するに、資本の自己増殖のためにかねは上前をはねられるのである。

ここで次のような反発が出てくるかもしれない。まっとうな企業活動に対して「上前をはねる」なんて言い方はけしからん、という反発だ。まっとうな企業と悪徳な企業とを混同してもらっては困る、と。

しかしこの反発は感情的なものではない。

どのような言い方をすればよ、他人を働かせてその成果の一部（ないしは全部）をかすめるという手続きがなければ、もとあった資本が増殖するということはいえない。この点では、まっとうな企業も悪徳な企業も変わりがない。両者の違いはただ、働かされる人がどれぐらい納得していて、どれぐらいの上前がはねられるか、という「程度の違い」だけである。

もちろん程度の違いはけつして無視していいものではない。よりひどい働かせ方というのは確かにある。

たとえば、強制的に働かせたり、相手をだましてタダ働きをさせたり、相手の不利な立場や無知につけこんで賃金を下げまくったり、といったケースがそうだ。これはこれで問題にされなくてはならない。

とはいえ、程度の違いをこえてそのしくみだけをみれば、上前をはねるといふ手続きそのものはあらゆる企業活動の基礎にある。ひどいケースを問題にすることは別に、この点は認めなくてはならない。

上前をはねることが企業活動の基礎になっていることを認めたくないというメンタリティは、カネを奪うことが国家をなりた

たせていることを認めたくないというメンタリテイとどこかつうじるところがある。どちらもナイーヴすぎるのだ。しかしナイーヴな発想にとどまっているかぎり、社会のしくみを理論的に把握することはけっしてできない。

労働・国家・資本というのは、社会のもっとも基本的な枠組みをなしている三つの柱だ。それらの柱がどのように建てられているのかを理解することが、社会をとらえるためのカギとなる。^(E)そこにナイーヴな発想を持ち込んではいならない。理解すべきなのは、それら三つの柱が、カネを手に入れるための三つの方法にそれぞれ対応しているということである。

とはいえ、「労働・国家・資本が社会の基本的な枠組みをなしている」といってもあまりピンとこないかもしれない。わかりやすくするために、それをプロ・スポーツにととえてみよう。サッカーでも野球でもなんでもいい。

労働をするのももちろん選手たちである。監督やコーチは、さしずめ管理職や現場監督といったところだろう。国家にあたるのは、そのプロ・スポーツ界を仕切っている協会や連盟である。

協会や連盟はルールや選手資格を定めたり、選手たちから出場資格をハクダツしたりすることができる。そのマツタン^(ニ)にいるのが審判たちだ。かれらは現場で直接選手たちのプレーを取り締まる。選手たちに求められるのは審判にたいする服従である。選手たちは、どれほど審判のジャッジを不服に思っても、それに従わなくてはならない。**X**の存在は、規則をめぐることがした強制と切りはなせない。

資本の活動を担っているのは、チームを運営している会社である。

その活動は、選手たちの労働^(Y)をつうじてもたらされる利益によってなりたっている。会社はこのとき利潤を得るだけ高めるために、いい選手を獲得しようとしたり、ファンサービスというかたちで営業をしたり、グッズを販売したり、選手たちへのホウシュウ^(ホ)をできるだけ抑えようとするだろう。

これら三つの要素によってプロ・スポーツの枠組みはつくられている。試合で起こるさまざまなこと——華々しいプレーや駆け引き、勝敗をめぐるドラマ、選手のあいだの友情や反目^(イ)など——は、この枠組みのなかで繰りひろげられるのだ。

社会の枠組みについてもこれと同じように考えることができる。^(F)労働・国家・資本とは、社会にとつてのフレームにほかな

らない。そのフレームのもとでわれわれは生活をし、いろいろなできごとに遭遇したり、人びととかわつたり、さまざまな感情を体験するのである。

(菅野稔人の文章による。ただし、一部変更した。)

(注) ポール・ヴィリリオ : フランスの思想家 (一九三二—二〇一八)。

問1 空欄〔 a 〕 〔 c 〕に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

1

3

a

1

① いわば

② そして

③ たとえば

④ したがって

⑤ というのも

b

2

① もちろん

② つまり

③ いわば

④ このように

⑤ それゆえ

c

3

① そして

② だが

③ とりわけ

④ それゆえ

⑤ つまり

問2 破線部ア「貢物」・イ「反目」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 4・5。

ア 「貢物」

4

- ① 祝賀の際の贈り物
- ② 献上する品物
- ③ 罪をつぐなうために差し出す品
- ④ 徴収すべき物品
- ⑤ 神仏へそなえる品々

イ 「反目」

5

- ① お互いに仲が悪いこと
- ② 相手を非難すること
- ③ 生理的に受けつけないこと
- ④ ひどく憎み嫌うこと
- ⑤ 殴り合って争うこと

問3 波線部(A)「哲学や思想も、カネを手に入れる方法について考えないわけではない」とあるが、なぜそのように言えるのか。

その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 6。

- ① 人間が生きていくために必要なカネについて考えることは、一見すると生きていくことは直接関係がないように見える哲学や思想の有用性を示すためには大切なことだから。
- ② 哲学や思想が関心を持たないのは、カネを手に入れるための知識や方法であり、カネとは何かを考えることは、むしろ哲学や思想にしかできないことだから。
- ③ 哲学や思想は生きていくことに関心を持つ学問であり、その意味で人の生と深くかかわるカネについて考えることは哲学や思想の関心の対象の中に入ってくるから。
- ④ カネがあれば人が生きていけるのはなぜかを問うことは、人間の生の本質を考えることを目的とする哲学や思想にとつては必要なことだから。
- ⑤ 哲学や思想というものは、どうでもいいことを敢えて深く考える学問であり、カネという世俗的な対象について考えることはまさにこの例に当たるから。

問4

波線部(B)「他人からカネを奪う」ということがなぜ国家にかかわっているのだろうか」とあるが、なぜ「カネを奪う」ことが「国家」にかかわるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 7。

- ① 他人からカネを奪う行為は国家が定めた法律によって禁止されており、カネを奪う行為は、私たちを否応なく国家とその警察組織に関係させることになるから。
- ② 国民は公共サービスを受けるために自発的にカネを国家に納めているが、それは自らカネを生むことができない国家が、国民からカネを奪う行為にはかならないから。
- ③ 公共のためなどという名目があつたとしても、国家は税金という形で、納める側がそれを望むと望まざるとにかかわらず、国民から強制的にカネを徴収するものであるから。
- ④ 国家は労働の枠組みを決める機関であり、そうした国家の行為は、最終的に国民が労働によって得たカネを税金という形で徴収することを目的としているから。
- ⑤ 国家は税金の徴収という形で、国民から奪われる理由のないカネを不合理に奪っており、哲学や思想によってそうした国家の暴力性や不合理が暴かれることになるから。

問5 波線部(C)「逆にいえば」とあるが、何と何が「逆」だというのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 8。

- ① 強制的にカネを収奪するのが税の構造だということと、税を徴収される人びとがその理由の説明を徴収する側に求めていくということ。
- ② 税が強制されるものであるのは普遍的な事実であるということと、税を強制するには正当化の根拠が希薄であるということ。
- ③ 君主のためであれ公共のためであれ、徴収の理由は税の強制性を変えるものではないことと、人々が税の徴収に合理的な理由を求めること。
- ④ 税が徴収されるのは公共のためだとしばしば言われることと、税を徴収される側が正当な目的のために税が使われるべきだと考えること。
- ⑤ 税の本質はカネの徴収の強制性そのものにあるということと、強制的な税の徴収は正当化のための理由を必要とするということ。

問6 波線部D「カネはみずからの増殖を目的としてのみ、労働の場に投入される」とあるが、これはどういうことか。その説

明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

9

。

- ① 企業は資金を投入し、労働者を働かせて給与を支払うが、一方で労働者は常に企業にカネを奪われており、そうすることで企業は初めて事業を存続することができるということ。
- ② 企業は収益が期待できる分野にのみ事業を展開させ、そうすることで労働者は一定の給与を受けるとともに、最初の資金が時間の経過に従って自然と増殖していくということ。
- ③ 企業は労働者を働かせる対価として労働者に給与を支払っており、給与をなるべく低く抑えて最大限の利潤をあげることで、初めて事業を存続できるものだという事。
- ④ 企業は何かを買うことや従業員の生活を保障するためではなく、投入した以上の利潤を得ていくことを目的に、事業に資金を投入して労働者を働かせるものだという事。
- ⑤ 企業が労働者に給与を支払うことは、想定した以上に労働者が働いて大きな成果をあげてくれることを期待してのことであり、そうした構造は労働者からカネを奪う行為だという事。

問7 波線部(E)「そこにナイーヴな発想を持ち込んでほならない」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤

の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

10。

- ① 企業が上前をはねることや税が国家による収奪であることを感情的に否定する行為は、労働・国家・資本によりなりたつ社会の構造の根本の論理から目をそらすことにつながるから。
- ② 労働・国家・資本によりなりたつ社会の枠組みに感情論を持ち込むことは、論理的な議論を後退させてしまい、国家と国民の間の対立を必要以上にあおってしまうことになるから。
- ③ 税金の支払いを自発的に行い企業の善意を信じる発想は、資本主義国家がただ資本の増殖のみを目的とする厳しい現実から目をそらし、貧富の差をさらに拡大する結果につながるから。
- ④ 企業活動の基礎が上前をはねることにあることや税金徴収が国家を成立させているという厳しい現実に対して、ナイーヴな心情で臨むことで、国家や資本の側の論理に労働者がとりこまれるから。
- ⑤ 社会の枠組みにかかわる理論的な把握にナイーヴな感情論を持ち込んでしまうと、枠組みをこえたできごととの出会いや人びととのかわりを体験することができなくなるから。

問 8

空欄

X

Y

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

11

・

12

。

X

11

① 国家

② 協会や連盟

③ スポーツ

④ 選手

⑤ ルール

Y

12

① 営業

② ファンサービス

③ 勝敗

④ プレー

⑤ 広告

問9

波線部F「労働・国家・資本とは、社会にとつてのフレームにほかならない」とあるが、このように述べることで筆者は何を言おうとしているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

13

- ① 労働・国家・資本の関係について考えることは、社会について考えることと同義であり、私たちが国家権力や資本家たちの思惑に一方的に従って生きることを避けるためには、これら三者の関係について理解を深める必要があるということ。
- ② 私たちは、カネによつて相互に関連する労働・国家・資本の中で自らの生を送っているものであり、まずそのことを理解する必要があるだけでなく、労働・国家・資本についての思考をあらゆる思考の原点に据えて物事を見ていく必要があるということ。
- ③ カネの話というと卑俗なものと取られがちであるが、むしろ人間が生きる上での根本にかかわる哲学的な問題であり、労働・国家・資本が社会の枠組みであるという観点に立ち、その三者とカネとのかかわりを理解する必要があるということ。
- ④ 哲学とは古くから労働・国家・資本の関係について多くの議論を積み重ねてきたものであり、哲学や思想を縁遠いものとしてとらえるのではなく、私たちの生活や実利的な面にも密接にかかわる部分について思考を行っていることをもっと理解してほしいということ。
- ⑤ カネを手に入れる方法について理解することは、ひいては労働・国家・資本について理解することにつながるものであり、哲学や思想を専門とする者はカネについて考えることを避けるのではなく、もっと積極的に思考し発信していく必要があるということ。

問10 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答

番号は 14 ～ 18。

(イ) フヨウ

14

- ① 相互フジヨの精神を持つ
- ② カンプなきままでにたたく
- ③ 演奏会までにアンプする
- ④ 鉄道をフセツする
- ⑤ テンプの才能がある

(ロ) キバン

15

- ① バンセツを汚す
- ② バンユウをふるって抗議する
- ③ 将棋のバンメンを凝視する
- ④ 事態はバンジ休すとなる
- ⑤ 駅伝のバンソウ車に乗り込む

(ハ) ハクダツ

16

- ① 政府にケンパク書を提出する
- ② 観客からハクシユ喝采を浴びる
- ③ ヒヨウハクの詩人の詩集を読む
- ④ 網膜ハクリの治療を受ける
- ⑤ ハクシンの演技を見せる

(ニ) マツタン

17

- ① タンリヨクを鍛える
- ② タンセイな顔立ちが印象に残る
- ③ イツタン立ち止まって考える
- ④ フランス語にタンノウな人を探す
- ⑤ 計画のハタンを回避する

(ホ) ホウシユウ

18

- ① 華道の家元をセシユウする
- ② 大使にシユウニンする
- ③ 勝利にコシユウする
- ④ 相手の提案をイツシユウする
- ⑤ 見事な技のオウシユウを繰り広げる

問11

日本の近代文学と「カネ」すなわち「お金」の問題についてまとめた次の文章の空欄

I

Ⅲ

に入れるの

に最も適切なものを、後の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

19

21

日本の近代文学でお金と愛との相克を描いてベストセラーになった作品に、尾崎紅葉の『I』がある。作品の背景には日清戦争期における資本主義の発展と生活における「お金」のウエイトの増大があり、この時期には他にも泉鏡花の『貧民倶楽部』などが書かれた。

大正末期には、マルクス主義思想が日本に流入し、これを思想的背景とするプロレタリア文学が興る。これは、労働者階級の生活や思想を描くことで、文字通り「お金」の欠如をテーマとして前面に打ち出した文学であったと言える。葉山嘉樹の『II』は、自身の労働力を売るしかない底辺の工業労働者の悲劇を描き出している。

一方で、同時期の芸術派にも「お金」の文学は多かった。たとえば林芙美子は、自身の実体験をもとに貧しい生活の中でも力強く生きていく女性を描いた『III』を発表、これがベストセラーとなった。同作は恐慌による生活難にあえぐ庶民に希望を与えた。作品は後に映画化・演劇化されている。

I

19

① たけくらべ

② 三四郎

③ 金色夜叉

④ 高野聖

⑤ 浮雲

II

20

① セメント樽の中の手紙
② 機械

③ 伊豆の踊子

④ 檸檬

⑤ 暗夜行路

III

21

① キャラメル工場から

② 放浪記

③ 女坂

④ 春琴抄

⑤ おはん

問1 破線部ア「馬のように生後間もなく駆け出すこともできず、猫のように生まれて数週間後に自分で食べ物を見つけること

もできない」に用いられている修辞法として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号

は 22。

- ① 倒置
- ② 反語
- ③ 対句
- ④ 押韻
- ⑤ 体言止め

問2 空欄 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

。

- ① やわらかい
- ② 熱い
- ③ 硬い
- ④ 冷たい
- ⑤ 新しい

問3 破線部イ「生を受けた」は「生まれた」という意味の慣用句であるが、その対義語である「死ぬ」という意味の慣用句と

して適切ではないものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

24

- ① 不帰の客となる
- ② 天寿を全うする
- ③ 鬼籍に入る
- ④ 春秋に富む
- ⑤ 大往生を遂げる

問 4

空欄

Y

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

25

。

- ① おそろく
- ② なるほど
- ③ すなわち
- ④ しかし
- ⑤ だから

問5 波線部(A)「奇跡ではない命など、この世にあるだろうか」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、

記号で答えなさい。解答番号は 26。

- ① 地球における生命の起源は、低確率の事象が連続して起こったことによる奇跡であると言える。
- ② 両親となる男女の出会いからして、実はすべての人間の赤ちゃんの誕生は奇跡のようなできごとなのではないか。
- ③ 低体重児に限らず、この世のすべての命の誕生と成長は奇跡であり、決して当たり前のことではない。
- ④ 多くの人の支えと高い医療技術がなければ、人間の赤ちゃんは無事に生まれることができない。
- ⑤ 生まれてきた命はみな、今後どのようにでも成長できるといふ奇跡的な可能性を持つていないか。

問6

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

27。

- ① 人間は独力で生きることのできない状態で生まれてくるが、それは奇跡のような変化の可能性を秘めていることを意味しているため、種としての強みになっている。
- ② 他の動物と違って社会的生物である人間は、自らが不完全な存在であることをわきまえ周囲の人間から学び続けることで、大きく成長する可能性を持っている。
- ③ 人間の中でもきわめて未熟な状態で生まれることは、生命の危険が高まる代わりに、今後の奇跡的な成長の可能性が膨らむことにつながる。
- ④ 生存確率の低い低体重児の退院は素晴らしいニュースであるが、実はすべての赤ちゃんは独力では生きられない存在であり、両手で包み込むような親の愛情を必要としている。
- ⑤ 未熟な状態で生まれる人間の赤ちゃんは、なべて奇跡的な存在であり、人々の支えのもと、時間をかけてさまざまに成長していく可能性を持っている。

問7 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 28) 32 。

(イ) 違いをこう表現している

28

(ロ) 未熟だから弱いのではなく

29

(ハ) 体重がなかなか増えず

30

(ニ) 点滴などに支えられ

31

(ホ) しっかりと刻みながら

32

- | | |
|-------|-------|
| ⑤ 副詞 | ① 名詞 |
| ⑥ 接続詞 | ② 動詞 |
| ⑦ 助詞 | ③ 形容詞 |
| ⑧ 助動詞 | ④ 連体詞 |

◆ 写 真 提 供 等 ◆

2021年度一般入学試験前期日程(2月2日)【国語】

『朝日新聞』2019年2月28日「天声人語」

承諾書番号 21-1812

※上記記事に関して朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。